

# 最先端の研究に触れる

## — 2学年講演会 —

- ◇日 時 5月28日(火) 5・6限 人文社会講演会  
6月 6日(木) 5・6限 SS講演会(理数科学講演会)
- ◇場 所 富山中部高校 至誠ホール
- ◇参加者 2学年普通科文系・人文社会科学科 104名  
2学年普通科理系・理数科学科 174名

普通科文系・人文社会科学科対象の人文社会講演会では、富山大学人文学部人文学科准教授の南祐三先生に、『今』と『自分』を知るための歴史学』というテーマで講演していただいた。人文学系の学問の存在意義をはじめ、6年間の間におよそ600万人ものユダヤ人が迫害されたユダヤ人問題を通して、歴史の意義と魅力について語ってもらった。当時の人々の解釈や、現在の歴史研究家の意見などをふまえた内容に、生徒はメモを取りながら熱心に聴き入っていた。今回の講演を聴いた生徒は「自分が学びたいと思っていた人文学や歴史学でも社会に貢献できることが分かり、大学での学びに意欲的になれた」と話した。



普通科理系・理数科学科対象のSS講演会(理数科学講演会)では、東京大学大学院工学系研究科教授の高井まどか先生に、「高分子を用いた人工臓器の開発」というテーマで講演していただいた。バイオセンサーや人工肺などの医療用デバイスを用いて、生体に新しい医学を提供するバイオエンジニアリングの研究についての話をしていただいた。先生は様々な高分子の活用によって診断や治療をより効率的にできるようにするための最新の研究を紹介された。講演後には質疑応答も活発に行われた。参加した生徒は「研究者になるためには日頃から自然現象などに興味を持つことが大切だということを知った。これから身近なことに興味を持ち、広く深く学んでいきたい。」と語った。

今回の講演会では、大学での高度な研究や学問が私たちの現在の生活や世界とつながり、さらに未来へとつながることを知ることができた。講演で学んだことを進路選択やこれからの探究活動や学習への意欲の向上に活かしていきたい。